

十和田八幡平国立公園

利用拠点（休屋・休平地区）マスタープラン

（素案）

令和7年3月 十和田湖1000年会議

十和田湖 北奥をいつくしむ 365日

奥羽山脈の北端・北東北の奥、北奥（ほくおう）。

その中心に座す悠久なる地球の営みから生まれた山上の湖水には、人々の自然への畏敬が集い、人知をこえた自然の力とはかり知れない湖水の神秘性や植物の纖細さ、それらをいつくしみ、寄り添うくらしがあります。

十和田湖地域にくらしが生まれてから150年あまり、その間に観光地として栄枯盛衰を経験しました。

ですが、1000年前から大切に紡がれた自然とくらしは今も変わらずあります。

私たちは、この先の1000年も、それらを紡いでいく使命があります。

十和田湖地域がこの先も、ここで過ごすすべての人にいつくしみの心を想起させる場所であり続けるために、自然を守り、地域や社会全体の持続性を高めていくことを目指します。

十和田八幡平国立公園十和田湖地域
高付加価値なエリア実現に向けた基本構想
「地域の目指す姿」より

十和田八幡平国立公園

利用拠点（休屋・休平地区）マスタープラン

序 章 マスタープラン概要と休屋・休平地区の現状

第1章 面的な魅力向上のための基本的考え方

第2章 魅力・価値を実感できる体験の提供に関する方針

第3章 持続可能な利用拠点づくりに関する方針

第4章 休屋・休平地区の将来像とその実現へ向けた施策

第5章 マスタープランの推進

巻末資料

マスタープランについて

本マスタープランは「取組方針」※1及び「基本構想」※2の内容に基づき、十和田八幡平国立公園十和田湖地域の利用拠点（休屋・休平地区）における面的な魅力向上のための基本計画です。本マスタープランにおいて、美しい自然の中での感動体験を柱とした滞在型・高付加価値観光の推進を図るため、利用拠点として目指すべき将来像や地域関係者と官民の連携によって実施すべき方針・施策を示します。

※1：宿舎事業を中心とした国立公園利用拠点の面的な魅力向上に向けた取組方針（令和5年6月 環境用自然環境局国立公園課）

※2：十和田八幡平国立公園十和田湖地域高付加価値なエリア実現に向けた基本構想（令和6年3月 東北地方環境事務所・十和田湖1000年会議）

1) マスタープランの位置づけ

目的：十和田八幡平国立公園における滞在型・高付加価値観光の推進

対象地：国立公園の利用拠点（休屋・休平地区）

内容：休屋・休平地区の面的な魅力向上のための基本的な計画

（将来像や地域関係者と官民の連携により実施すべき方針・施策を示す）

策定者・実施者：十和田湖1000年会議

3) マスタープラン策定の背景

国立公園における滞在体験の魅力向上先端モデル事業

「国立公園満喫プロジェクト」の更なる展開施策として、
国立公園で滞在型・高付加価値観光を推進するための取組

宿舎事業を中心とした国立公園利用拠点の
面的な魅力向上に向けた取組方針（令和5年6月）

十和田八幡平国立公園十和田湖地域
高付加価値なエリア実現に向けた基本構想（令和6年3月）

「国立公園における滞在体験の魅力向上先端モデル事業」の
利用拠点として全国で初めて選定（令和6年3月）

面的な魅力向上のための基本計画
「利用拠点（休屋・休平地区）マスタープラン」

本マスタープランに基づき、各種施策を
関係機関及び官民の連携によって更に推進

2) マスタープラン検討の枠組み

十和田湖1000年会議

本会議

十和田市長、鹿角市長、小坂町長、
東北地方環境事務所長等により構成

幹事会

1000年会議構成員の事務担当者・部署を中心に構成

ワーキンググループ

- ①地域ワーキンググループ：地域の住民・事業者、行政担当者を中心に構成
- ②推進体制ワーキンググループ：地域の関係団体により構成

事務局（環境省十和田八幡平国立公園管理事務所）
調査検討／事業者ヒアリング／有識者ヒアリング 等

マスタープラン対象地域

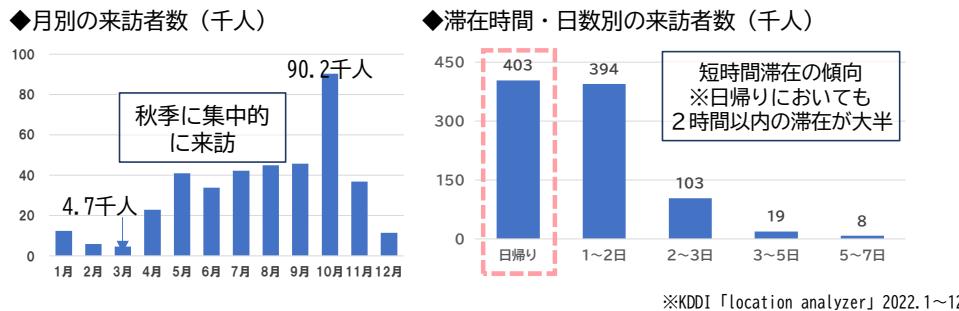


休屋・休平地区における面的な魅力向上に向けた課題

1) 滞在体験の提供に関する課題

課題：十和田湖ならではの魅力・価値を活かしきれてない

- ・団体・通過型の観光地となっており、来訪者の滞在時間が短く消費機会が少ない
- ・個人旅行やコト消費の対応が不足しており、満足度・リピートに繋がらない
- ・特に冬季の魅力・価値の磨き上げや来訪者への提供が不足
- ・休廻業と事業撤退が進行し、観光の要である宿や飲食物販の店舗（機能）が減少

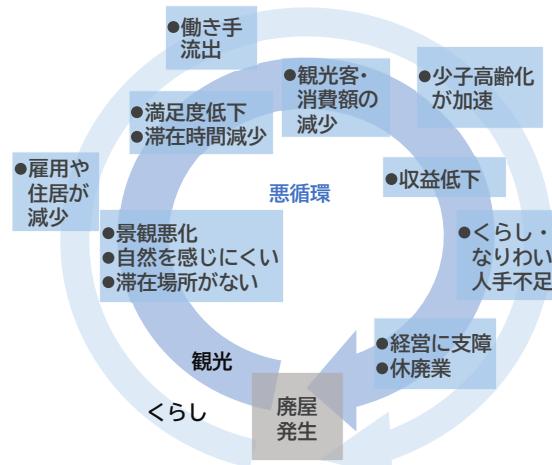


3) 持続性に関する課題

課題：廃屋の発生が、くらし・なりわいの持続性も阻害

- ・休廻業や廃屋化は、景観悪化のみならず、雇用の減少、働き手の流出等を招き、また新たな廃屋発生に繋がっている

◆廃屋発生による負のスパイラル



2) 街並み景観、滞在空間に関する課題

課題：車と建物が優先され、廃屋や老朽化施設も多く、自然をゆったり楽しめない

- ・多くの廃屋と廃業施設が残置されており、景観を著しく阻害
- ・大規模な建物の密集、無秩序な路上駐車や広告物等、湖や自然を感じにくく
- ・歩行者と車両の動線が混在しており、歩きにくく事故危険性も高い
- ・老朽化施設が多く、脱炭素、防災、ユニバーサルデザイン等の対応が不十分
- ・断熱効率の低い建物が多く、冬季滞在のためのランニングコストの増大（→通年営業・雇用の阻害要因にも）



◆駐車場料金所(普通車500円/日)



※十和田HP

課題：利用を保護・管理に繋げる仕組みが不十分

- ・駐車場料金収入を地域の保全管理に充てているが、除雪対応など冬季観光の受け入れ体制が不十分
- ・観光施設の脱炭素、脱プラスチック等の取組が低調。地球環境への配慮や貢献を重視する観光ニーズへの対応が不十分

課題：観光を支える地域社会の担い手不足が深刻化

- ・十和田湖小学校区は令和5年～17年で人口が半減、65歳以上割合は50%を超えるとの予測
- ・除草、除雪等の観光地管理に加え、生活基盤である住居、教育、医療等の提供体制も悪化するおそれ

◆地区別的人口

総人口	H7	H12	R2	R5
休屋	402		169	158
宇樽部	202	574	85	71
大川岱	-	113	60	-
休平	-	166	49	-

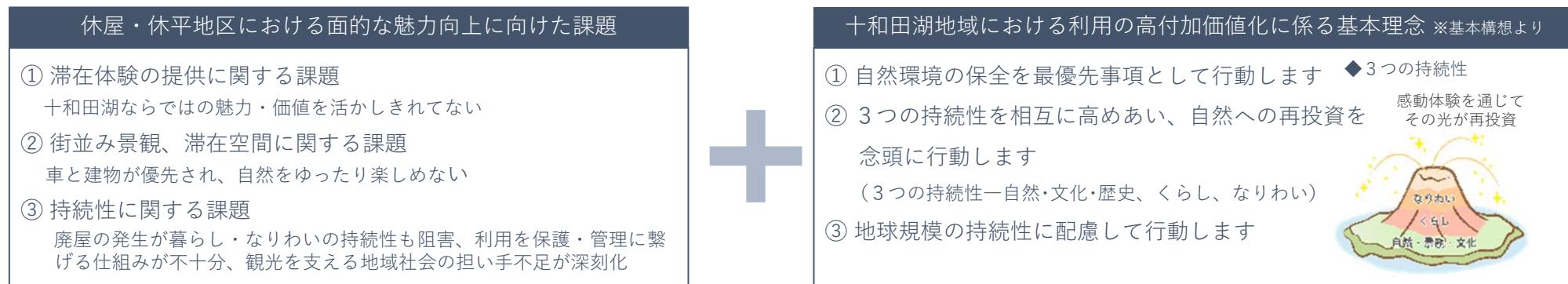
※国勢調査

休屋・休平地区における面的な魅力向上のための基本的考え方

1) 面的な魅力向上の方向性

本地区の課題と基本構想で整理した十和田湖地域の基本理念に基づき、休屋・休平地区における面的な魅力向上の方向性を定めます。

また、これらの方向性に基づく取組を通じて、滞在時間が長く、地域の自然・文化への敬意が高い旅行者に選ばれる休屋・休平地区を目指します。



休屋・休平地区における利用の高付加価値化へ向けた面的な魅力向上の方向性

1. 十和田湖ならではの
魅力・価値を活かした「質」の向上

2. これ以上廃屋を生み出さない地域づくり

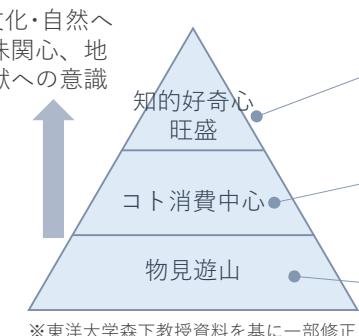
3. 環境保全と地域課題解決への貢献

※これらに反する観光商品・サービス提供は、たとえ高価・豪華でも「国立公園の利用の高付加価値化」とは扱わないこととします。

◆高付加価値化の取組によって期待される効果

- ・質の高い体験や空間の提供等により、団体旅行者に加えて、**滞在期間が長く、地域の自然・文化への敬意が高い旅行者層**にも選ばれる。
- ・来訪者に提供できる体験の幅を広げることで、**リピーターの獲得**にも繋がる。
- ・廃屋発生の防止や環境保全・地域課題対策への貢献により、**持続可能な地域づくりの基盤**が形成される。

◆旅行者層の分類



◆各層の特性

地域の文化・自然に興味・知識があり、本物・本質を求める。そのための費用は厭わない。自己成長・自己変革が目的。個人・長期滞在の傾向
休屋・休平への来訪はごくわずか

地域の文化・自然に興味はあるがその土地の代表的な体験を求める。自身にとってはレア体験。コト消費が中心
休屋・休平にも一定数訪れる

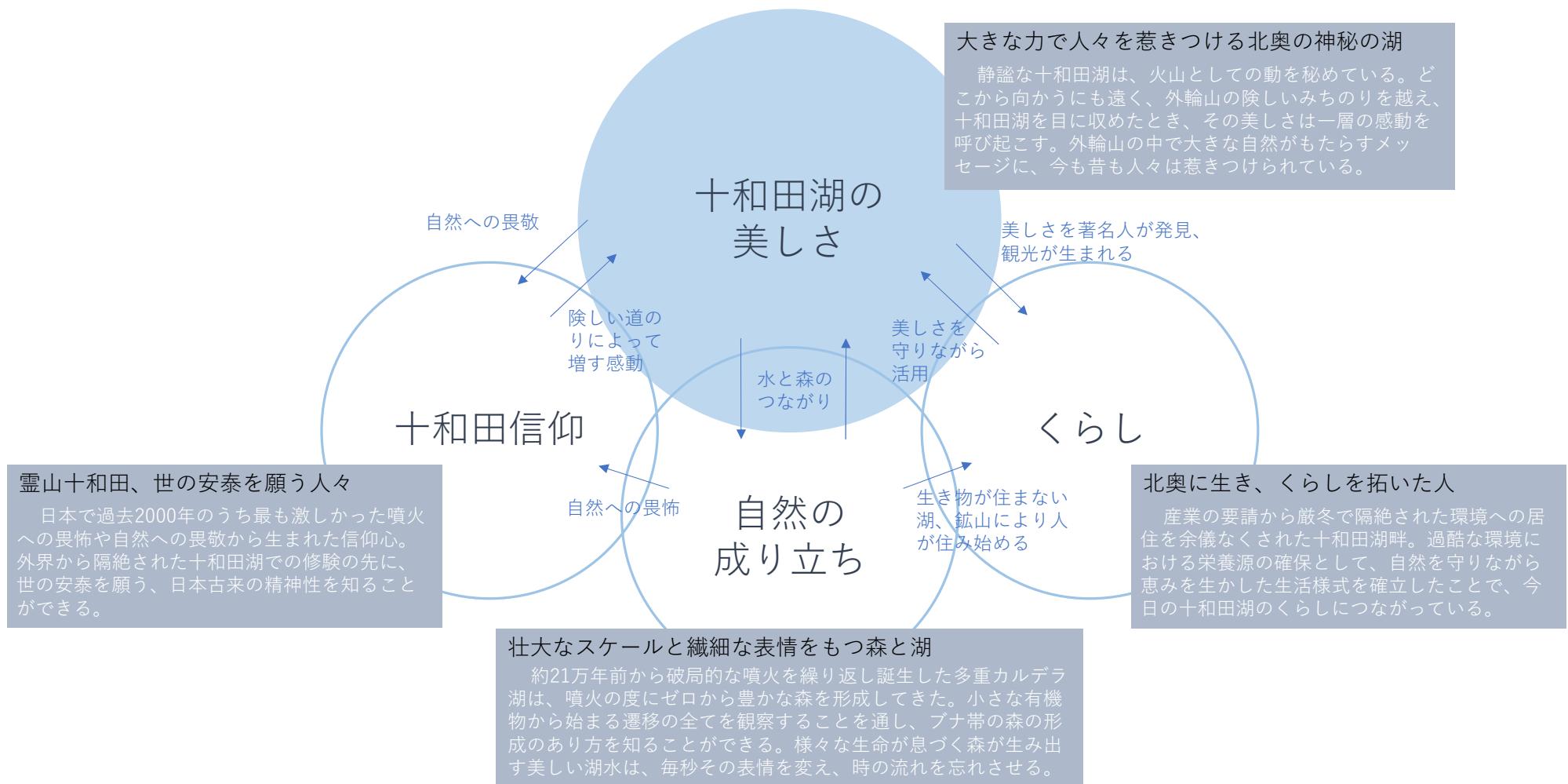
地域の文化・自然にそれほど興味はない。話題性や気分で行き先を選び、なるべく安く旅行したい。見る・撮るが中心。団体・短期滞在の傾向
休屋・休平の来訪者のうち特に多い層

休屋・休平地区における面的な魅力向上のための基本的考え方

2) 十和田湖“ならでは”的魅力と価値 【国立公園十和田湖 自然と人々のストーリー】

「十和田湖ならではの魅力・価値を活かした「質」の向上」を図るため、ならではの魅力・価値を「自然と人々のストーリー」として表現します。このストーリーは、人を惹きつける大きな力を示した「十和田湖の美しさ」、水と森のつながりを示した「自然の成り立ち」、湖水美等の自然への畏敬から生まれた「十和田信仰」、その美しさを守りつつ拓かれた「くらし」の観点からとりまとめました。

「十和田湖ならではの魅力と価値」を示すストーリー



休屋・休平地区における面的な魅力向上のための基本的考え方

3) 来訪者に提供できる“ならでは”的魅力と価値

基本構想（十和田湖地域の目指す姿）と前項のストーリーを踏まえ、休屋・休平地区で提供できる、ならではの魅力と価値を以下のとおり整理します。

基本構想「十和田湖地域の目指す姿」
十和田湖 北奥をいつくしむ 365日 × 自然と人々の物語（ストーリー）

休屋・休平地区において来訪者に提供できる“ならでは”的魅力と価値

1. 神秘的な自然美

多重カルデラ湖の神秘的な美しさ
を実感する散策・眺望

湖畔林の保全管理と外輪山への眺望を確保し
つつ、湖を様々な場所から散策し眺める体験



2. 十和田信仰

自然と向き合う心が磨かれる
十和田信仰に触れる体験

史実に基づいた古道や結界の強調
などによる十和田信仰の追体験



3. 自然を感じる滞在

自然の中での魅力溢れるくらしを
365日味わえる上質な滞在

1年を通じて安全・快適に
地域の価値・魅力に触れられる滞在体験

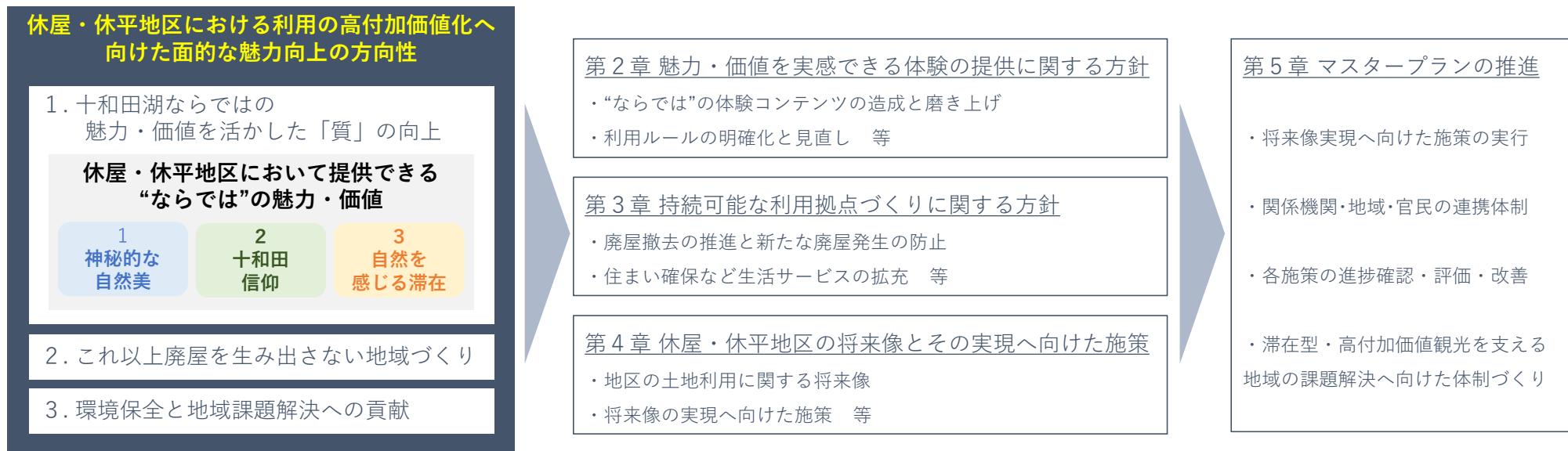


休屋・休平地区における面的な魅力向上のための基本的考え方

4) 利用の高付加価値化の実現へ向けた施策展開

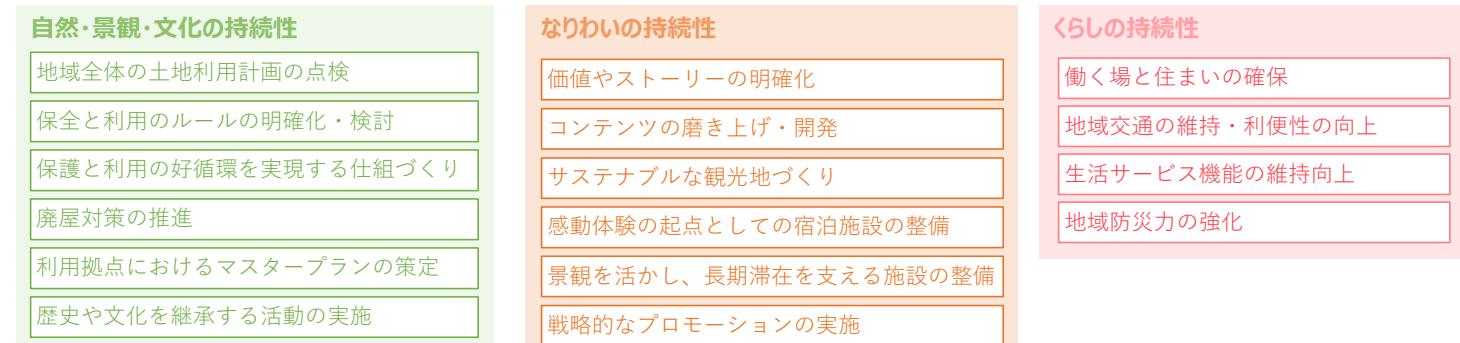
次章以降で、魅力・価値を実感できる体験の提供に関する方針、持続可能な利用拠点づくりに関する方針、休屋・休平地区の将来像を示します。

また、これらの方針と将来像の実現へ向けて、必要となる施策及びその推進体制等の考え方をまとめます。



◆基本構想に掲げた施策の方向性への対応

基本構想で示した施策の方向性のうち、本マスタープランでは特に以下の内容に対応します。なお、以下の関連施策も併せて取り扱います。



魅力・価値を実感できる体験の提供に関する方針

1) 地域関係者全体での魅力と価値の提供（インタープリテーションの推進）

休屋・休平地区の利用の高付加価値化を進めるためには、十和田湖ならではの魅力・価値を、地域関係者全体で提供していくことが重要です。

今後そのための計画（インタープリテーション計画）の作成を進めるとともに、活用の推進を図ります。

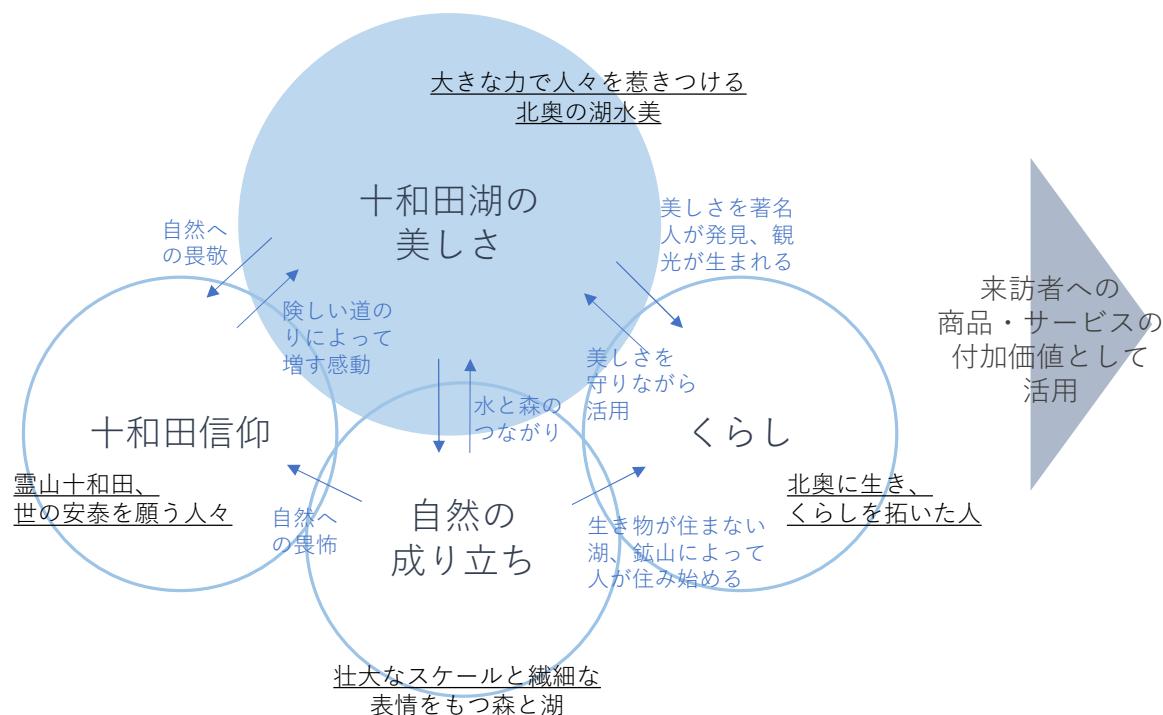
インタープリテーション計画の作成・活用

- ・十和田湖ならではの魅力と価値を、住民も含めた地域関係者全体で共有・共感
- ・更にその魅力と価値を、地域関係者それぞれが取り扱う商品・サービス（料理、お土産、体験プログラム等）に活用し、来訪者に提供する。

インタープリテーション計画とは？

十和田湖ならではの魅力・価値を、地域関係者全体で、休屋・休平地区の来訪者に伝える・提供するための計画

◆十和田湖ならではの魅力・価値



ならではの魅力と価値を
伝える手法等を検討・活用

休屋・休平地区の来訪者に 高付加価値な体験として提供

全国どこにでもある商品・サービスでなく、
十和田湖ならではの付加価値を持つ体験を提供

interpretation



地元ガイドの解説を受け
ながら特別な信仰の場へ



ヒメマス漁を学びながら
地元料理教室に参加

魅力・価値を実感できる体験の提供に関する方針

2) 十和田湖ならではの魅力・価値を実感できる体験の提供と磨き上げ

ストーリーに基づき、来訪者が得られる体験価値や体験の提供・磨き上げのために重要となる要素等を示します。

大きな力で人々を惹きつける北奥の湖水美 (十和田湖の美しさ)

静謐な十和田湖は、火山としての動を秘めている。どこから向かうにも遠く、外輪山の険しいみちのりを越え、十和田湖を目に収めたとき、その美しさは一層の感動を呼び起こす。外輪山の中で大きな自然がもたらすメッセージに、今も昔も人々は惹きつけられている。

【来訪者の体験価値】

十和田湖に引き寄せられ・魅せられた先人や遠く険しいみちのりの先にある、十和田湖の湖水美や複雑な地形が見せる様々な表情を見ることで、安堵感や達成感を抱くことができる。また、外輪山の中で自然と対峙した時、悠久で壮大な自然に抱かれながら、多幸感や祈りなど、自身の様々な感情に出会うことができる。

【体験の提供・磨き上げに重要な要素】

- ✓ 外輪山を越える … 展望所から十和田湖を眺める
- ✓ 外輪山を感じる … 遊覧船・カヌーに乗る、湖畔・特別な空間から湖を眺める
- ✓ 惹きつけられた人を知る … 乙女の像を見る、十和田保勝論・大町桂月の紀行文を読む

十和田湖の美しさを実感できる体験を検討

地元自然ガイド等と連携し、十和田湖の美しさを実感できる
体験コンテンツの検討、体験環境整備を推進

壮大なスケールと繊細な表情をもつ十和田湖 (自然の成り立ち)

約21万年前から破局的な噴火を繰り返し誕生した多重カルデラ湖は、噴火の度にゼロから豊かな森を形成してきた。小さな有機物から始まる遷移の全てを観察することを通し、ブナ帯の森の形成のあり方を知ることができる。様々な生命が息づく森が生み出す美しい湖水は、毎秒その表情を変え、時の流れを忘れさせる。

【来訪者の体験価値】

火山の力強さ、繊細な四季、長い年月による森の成り立ち、森と湖のつながりを知ることで、毎秒の美しさへの理解が深まり、目の前の景色への感動が一層増す。

【体験の提供・磨き上げに重要な要素】

- ✓ カルデラ地形を眺める … 発荷峠・御鼻部山展望所から地形を眺める
- ✓ 森の成り立ちを知る … ランブリングに参加する
- ✓ 下流との繋がりを感じる … 奥入瀬渓流ツアーに参加する、水門を見に行く

十和田湖の自然の成り立ちを実感できる体験を検討

地元自然ガイド等と連携し、十和田湖の自然の成り立ちを
実感できる体験コンテンツの検討、体験環境整備を推進

魅力・価値を実感できる体験の提供に関する方針

2) 十和田湖ならではの魅力・価値を実感できる体験の提供と磨き上げ (つづき)

ストーリーに基づき、来訪者が得られる体験価値や体験の提供・磨き上げのために重要となる要素等を示します。

靈山十和田、世の安泰を願う人々 (十和田信仰)

【導入文】

日本で過去2000年のうち最も激しかった噴火への畏怖や自然への畏敬から生まれた信仰心。外界から隔絶された十和田湖での修験の先に、世の安泰を願う、日本古来の精神性を知ることができる。

【来訪者の体験価値】

十和田信仰・十和田神社を知ることで、日本に古来からある自然に対する畏怖・畏敬の念、日本人の精神性・心の拠り所を思い起こすことができるようになる。

【体験の提供・磨き上げに重要な要素】

- ✓ 信仰をなぞらう … 十和田神社・占い場・自籠り岩へお参りする、古道を歩く、かぎかけを体験する
- ✓ 十和田信仰を学ぶ … 早朝ツアーへ参加する、八郎太郎伝説を学ぶ

北奥に生き、くらしを拓いた人 (十和田湖の生活)

【導入文】

産業の要請から厳冬で隔絶された環境への居住を余儀なくされた十和田湖畔。過酷な環境における栄養源の確保として、自然を守りながら恵みを生かした生活様式を確立したことで、今日の十和田湖のくらしにつながっている。

【来訪者の体験価値】

カルデラ湖から生まれた産業、私費を投じてでもくらしを拓こうとした先人や今までつないできた人々の志を知ることで、自然の恵みとともに生きる原始のくらしを知ることができ、豊かさに立ち返ることができる。

【体験の提供・磨き上げに重要な要素】

- ✓ 十和田湖の恵みを知る … 民宿・食堂で十和田湖の恵みを食す
- ✓ ヒメマス漁を知る … 孵化場・道の駅和井内に行く、ヒメマス漁を体験する
- ✓ 先人を知る … 道の駅和井内で銅像を見る、開発の碑を見に行く

十和田信仰を実感できる体験を検討

地域関係者・地元自然ガイド等と連携し、十和田信仰を実感できる体験コンテンツの検討、体験環境整備を推進

十和田湖のくらしを実感できる体験を検討

宿泊施設・漁協組合・地元自然ガイド等と連携し、十和田湖のくらしを実感できる体験コンテンツの検討、体験環境整備を推進

魅力・価値を実感できる体験の提供に関する方針

3) 体験の提供と磨き上げに向けた利用ルールの明確化・見直し

① 湖面の利用ルールについて

従前から水上バイク及びモーターボート乗り入れに関する課題があります。十和田湖ならではの魅力・価値を伝える新たなコンテンツの造成・磨き上げにあたって、利用ルールの明確化及び必要に応じて見直しを行います。

② 陸域の利用ルールについて

立入が困難又は制限のある区域について、十和田湖ならではの魅力・価値を伝える新たなコンテンツでの活用可能性を検討し、必要に応じて安全対策や人数制限といったルールに基づく利用を検討します。

③ ガイドブックやビジターセンター等を通じて、利用ルール・マナーの周知徹底を進めます。



4) コンテンツ造成等の留意点

- ・高付加価値化な観光推進のため、新たなコンテンツの造成・磨き上げにあたっては、地区の高付加価値化の方向性である「十和田湖ならではの魅力・価値を活かした「質」の向上」、「これ以上廃屋を生み出さない地域づくり」、「環境保全と地域課題対策への貢献」に留意します。これらの考え方方に反するものは、高付加価値な体験コンテンツとは扱わず、休屋・休平地区においては抑制的に取扱います。
- ・滞在型の観光推進のため、早朝・夜間及び冬季のコンテンツ造成等を重視するとともに、今後誘致が予定されている宿泊施設等との連携を念頭に置いて検討します。

5) プロモーション、ブランディング、マーケティングの強化

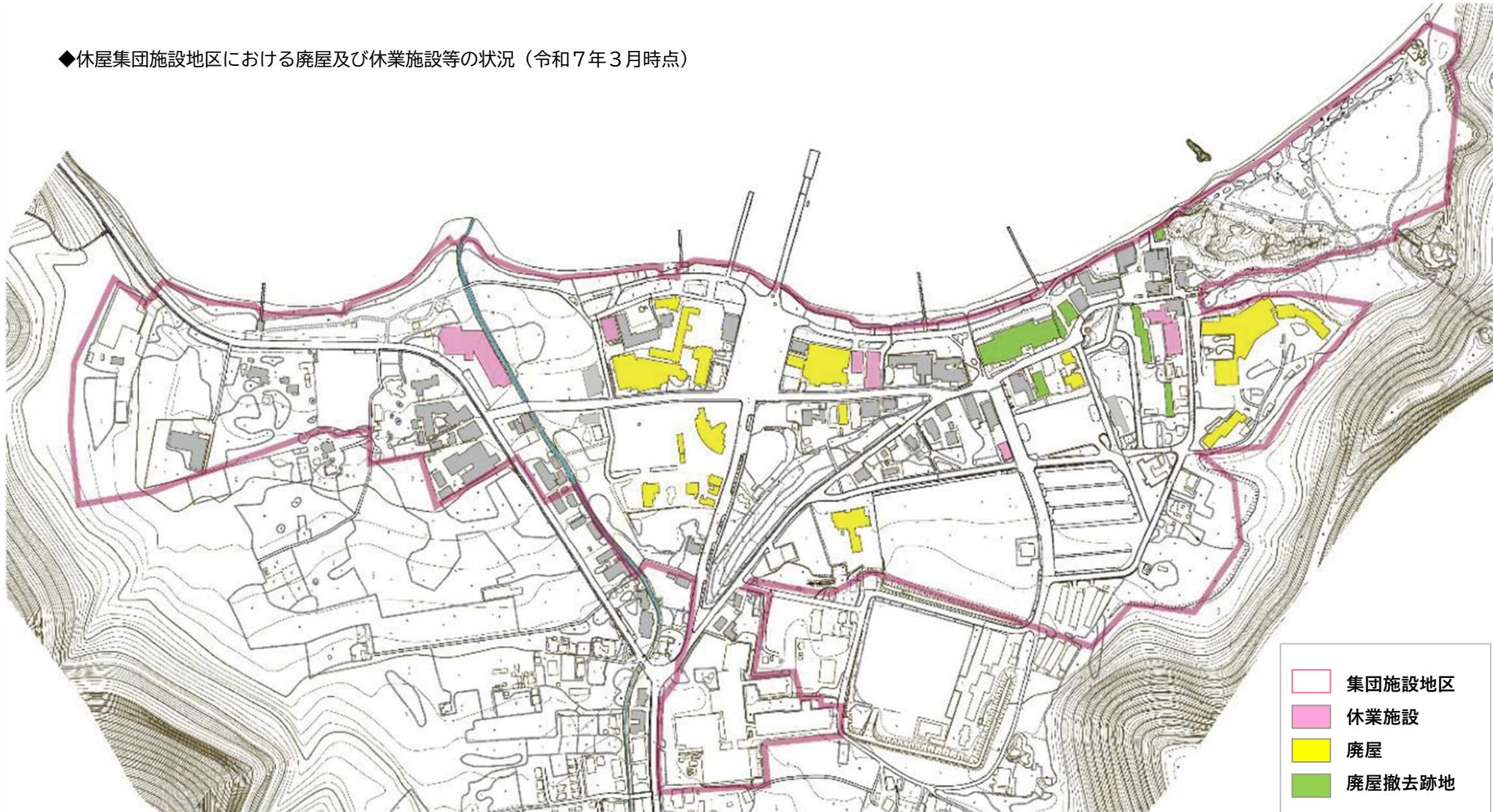
- ・十和田湖ならではの魅力・価値の提供を最大化させるため、また、2026年2月1日に十和田八甲田地域の国立公園指定90周年、更に2031年10月1日には国立公園制度施行100周年を迎えることも踏まえ、十和田湖地域に特化したプロモーション、ブランディング、マーケティングを強化します。

持続可能な利用拠点づくりの方針

1) 廃屋対策のさらなる推進

休屋・休耕地区では廃屋撤去が進められていますが、未だ多数の廃屋が存在するため、今後も着実に撤去等へ向けた対応を進めます。

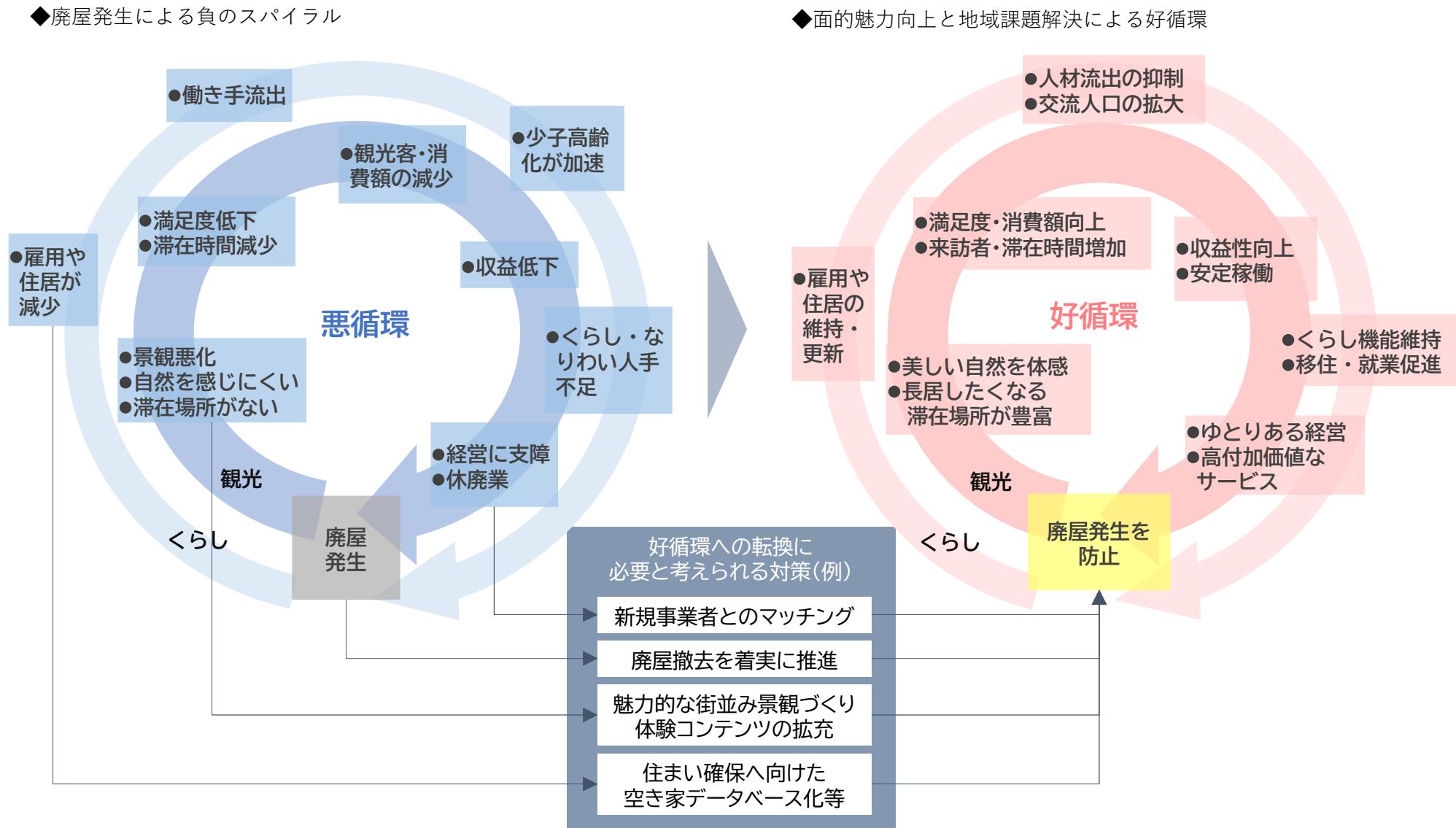
◆休屋集団施設地区における廃屋及び休耕施設等の状況（令和7年3月時点）



持続可能な利用拠点づくりの方針

1) 廃屋対策のさらなる推進 (つづき)

廃屋の発生は暮らし・なりわいの持続性も阻害することから、新たな廃屋発生の防止も不可欠です。不動産データベース化及び休廃業施設の有効活用等を進め、廃屋発生に起因する悪循環を止め、好循環に転換させることで、観光を支える暮らし・なりわいの持続性向上を目指します。



持続可能な利用拠点づくりの方針

2) 利用を保護・管理に繋げる仕組みづくり

①駐車場料金に係る利用者負担の仕組み検討

駐車場料金による利用者負担の仕組みが既に導入されていますが、この仕組みを拡充又は見直し、公園利用者からの収受金を、現状不足している除雪等の地域の保護・管理の財源に充当できるような形を検討します。

各種調査や実証実験等を踏まえて検討を進め、地域の合意形成を経た上で新たな仕組みの導入を目指します。

②新たな限定ツアー等の収益還元

新たに検討・磨き上げを行う体験コンテンツのうち、従来利用が制限されていた区域での体験等を限定的に行う場合、その収益の一部を地域の保全・管理に充てる仕組みを検討します。

3) 脱炭素及び地域防災への貢献

①脱炭素等への貢献

電気自動車の利用促進を継続するとともに、地域の事業者による更なる脱炭素・脱プラスチックの取組を支援します。また、これらの取り組みの継続・強化を図り、持続可能な観光地としての国際認証（グリーンデスティネーション等）の取得、ゼロカーボンパークの登録を目指します。

②地域防災への貢献

災害時の避難対策等にも資するよう、国立公園の利用施設整備にあたっては国土強靭化や地域防災力強化の観点を重視します。

4) 滞在型・高付加価値観光を支えるくらしの課題対応

①旧十和田湖小学校の活用

現在廃校となっていますが、地域からの利活用要望も大きいため、くらし・なりわいの持続性を高める施設や事業としての活用を中心に検討します。

②住まいの確保

今後誘致が予定されている事業者の受入れ環境整備の一環として、住まいの確保・提供に係る対策を推進します。空き家バンクによる住居情報提供、地域おこし協力隊制度の活用など、既存の仕組みの活用を中心に検討しつつ、対策を強化します。また、空き家情報の整理やマッチング等を行う地域独自の仕組みを検討します。

③教育・医療サービスの向上

今後誘致が予定されている事業者の受入れ環境整備の一環として、特に子育て世代が安心して働くための環境整備を進めます。

教育：地域での環境教育プログラム造成やグリーンスクールを目指した活動等、地域内外の子どもに対し、学習体験を通して持続可能な未来を担う人材を育てるエリアとすることを検討します。

医療：予防医療や身近な日常診療、訪問介護等の実現に向け、ICT技術の活用した先進事例収集、外部のサービス提供事業者との連携可能性を検討します。

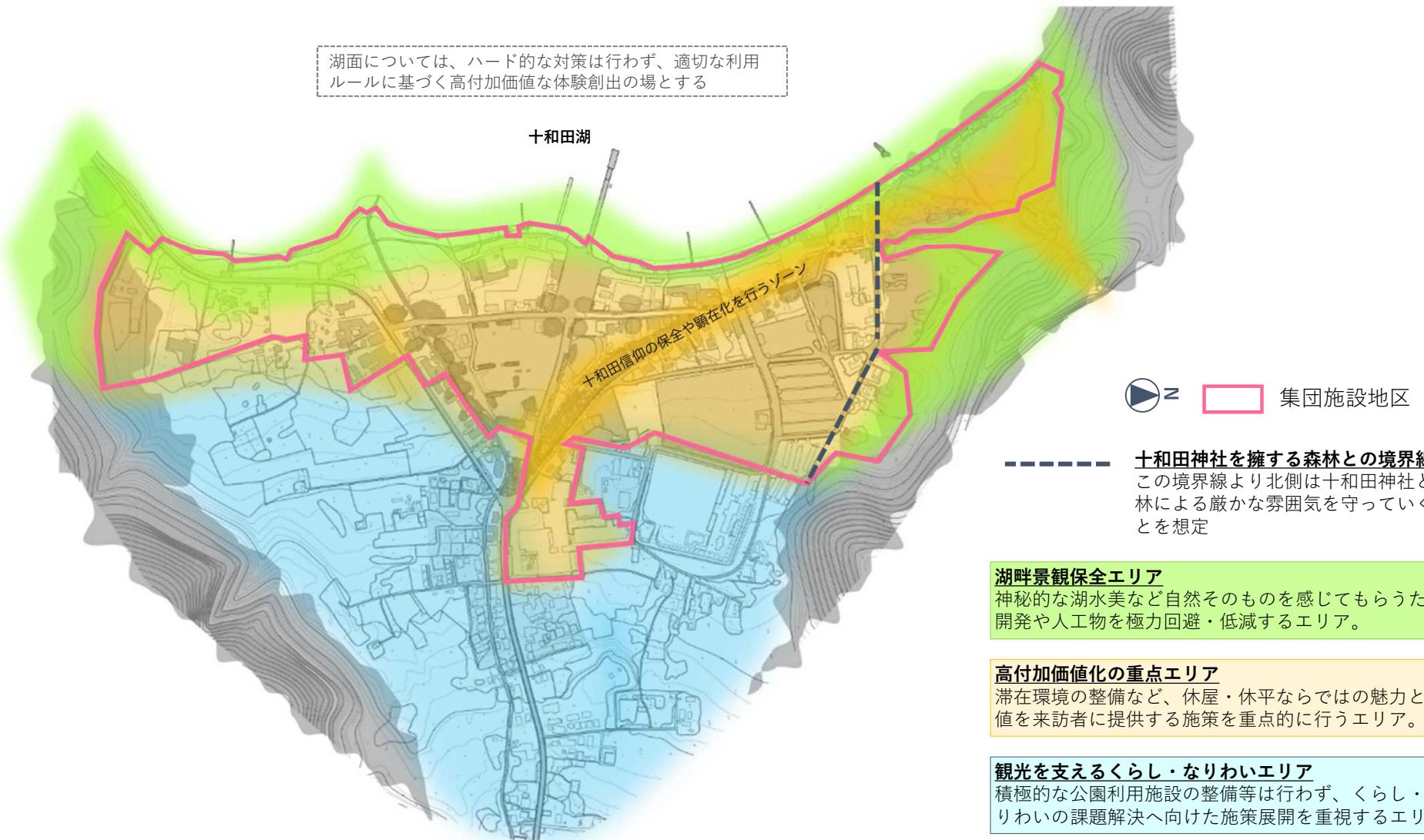
④湖畔地域の連携による総合力強化

十和田市・小坂町・鹿角市の行政サービスの相互利用を促進し、義務教育、医療、消防・防災等の施策の効率化・充実を図ります。

1) エリア区分

休屋・休平地区における面的な魅力向上の方向性及び来訪者に提供できる魅力と価値を踏まえ、対象地区を、湖畔景観の保全を重視するエリア、利用の高付加価値化を重点的に進めるエリア、くらし・なりわいの課題解決に重点を置くエリアとして、概ね下図のとおり区分します。

なお、各エリアの考え方は相互に関連・重複する部分もあるため、各エリア境界は厳密なものではありません。



2) 高付加価値化の重点エリアにおける土地利用検討の前提となる考え方

① 眺望の確保

多重カルデラ湖という特別な空間にいる実感を得るには、湖と外輪山を様々な場所から眺める体験が必要です。湖への眺望空間の確保を行うとともに湖からの眺望景観を確保するため、引き続き建築物等の高さを制限し、必要に応じて見直します。

◆湖からの現在の眺望



② 歩車共存の実現による安全性の確保

歩行者と車両の導線が混在していることから、今後は歩行者が安全にゆったり滞在できるような空間を整備するとともに、動線の整理や車両の進入制限等により、車両・歩行者をできる限り分離させます。

③ 十和田信仰の強調

かつての車両優先の観光開発により、休屋・休平地区の魅力と価値である十和田信仰が感じにくい空間となっています。将来に渡り十和田信仰の価値を残していくために、信仰にまつわる古道や遺構を強調・顕在化させます。

④ 地域の主動線の位置づけ

現在の車両動線の課題を踏まえ、ビジターセンター前の道路（概ね南駐車場から神社まで）を本地区の主動線として位置づけ、安全性の確保や信仰の強調等を実現します。また、建物間の空間や湖につながる細街区を整備することで、湖の存在を感じやすい空間とします。

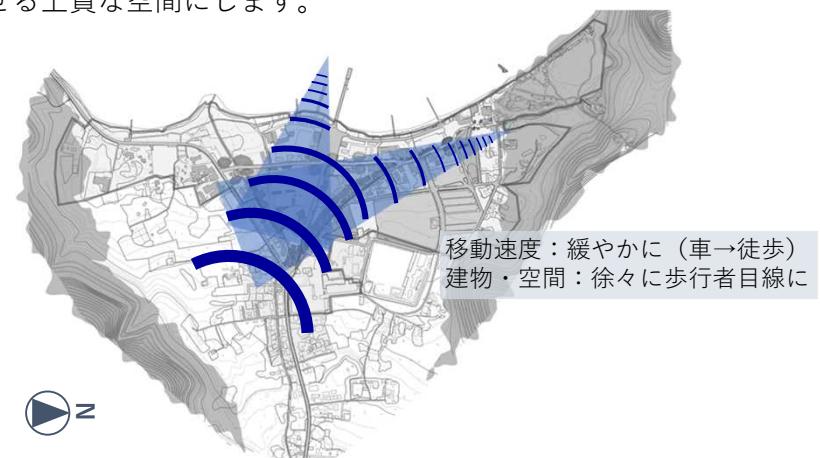
⑤ ゆとりを持った建物間隔の確保

これまでの地域での議論の結果、ゆったり滞在できる場所が求められています。特に高付加価値の重点エリアにおいては、ゆったりとした雰囲気を表現するために、建物間隔にゆとりを持たせた配置とします。



⑥ 移動速度に応じた空間の演出

湖と神社は地域の中でも特に重要な場所であるため、これらの場所に向かうにつれて、徐々に移動速度を落とし、建物や広告表示等は歩行者の目線を踏まえた配置や規模等を考慮することで、歩行者がゆったりと過ごせる上質な空間にします。



★：主要施策

1. 神秘的な自然美

多重カルデラ湖の神秘的な美しさを実感する散策・眺望

実施すべき施策の観点と具体策

観点① 湖畔における体験空間の提供

- ★主動線から湖側への「抜け」や導線の確保
- ✓ 湖畔の休憩ベンチ・東屋等の設置改修
- ✓ 眺望体験を支援するサービスの展開

観点② 湖上からの眺望提供

- ★湖畔林の適切な保全・管理
- ★建築物等の景観管理ルールの明確化と見直し
- ✓ 遊覧船・カヌー等による湖上体験の展開及び湖面利用ルールの明確化と見直し

観点③ 俯瞰の眺望提供

- ✓ 展望台での通景伐採等による俯瞰眺望の回復
- ✓ 既存展望台を利用した体験ツアーの充実

2. 十和田信仰

自然と向き合う心が磨かれる
十和田信仰に触れる体験

実施すべき施策の観点と具体策

観点① 古道の強調

- ★古道の杉並木・鳥居の再整備・管理
- ★車両主動線の変更
- ★新たな地域の玄関口の整備
- ✓ ガイドブックやビジターセンターでの十和田信仰の案内の充実

観点② 信仰を感じられる場の提供

- ★占場・自籠岩のアクセス路整備等の検討・管理
- ✓ 神泉苑の再整備
- ✓ 十和田信仰を実感する体験の創出及び利用ルールの明確化と見直し

観点③ 神聖で厳かな空間の構築

- ✓ 神社参道の電柱・電線の移設・地中化
- ✓ ガイドブックやビジターセンターでのマナーに関する案内の充実

3. 自然を感じる滞在

自然の中で魅力溢れるくらしを
365日味わえる上質な滞在

実施すべき施策の観点と具体策

観点① 廃屋撤去・撤去跡地の上質な利活用

- ★着実な廃屋撤去
- ★上質な体験や冬の滞在を推進する事業誘致
- ✓ 既存施設の上質化へ向けた改修等
- ✓ 老朽化施設のUD化・国土強靭化
- ✓ 新たな誘致施設と連携した体験の創出

観点② 冬季観光のための基盤整備

- ★排除雪空間の確保（ゆとりある土地利用）
- ✓ 排除雪の体制づくり

観点③ 安全・快適な回遊空間の実現

- ★歩行者優先空間の創出（車両制限等）
- ★主動線の石畳化・無電柱化・休憩スペース拡充
- ★移動支援モビリティの導入・乗換拠点の整備
- ★南駐車場の機能拡充とエリア回遊の拠点化
- ✓ 北奥のくらしを実感するコンテンツの充実

持続可能な利用拠点づくり

★旧十和田小学校の活用検討

★空き家対策・住まいの確保

★子育て・教育・医療サービスなどの拡充

✓自治体間での行政サービス連携

✓ 利用者負担制度の検討・運用見直し

✓ 持続可能な観光地としての国際認証取得等

休屋・休平地区の将来像とその実現へ向けた施策

将来（2050年）の土地利用イメージ



1. 神秘的な自然美

多重カルデラ湖の神秘的な美しさを実感する散策・眺望

湖畔林の保全管理や外輪山への眺望を確保しつつ、湖を様々な場所から散策し眺める体験

★: 主要施策

桃字: ソフト施策 (体験・インターープリテーション)

※次年度以降に具体的な検討を予定

観点① 湖畔における体験空間の提供

湖面の繊細な表情と季節毎に姿を変える湖畔林が織り成す心地良さを実感させる

観点② 湖上からの眺望提供

壮大なスケール、静謐さ、没入感、安堵感・多幸感を実感させる

観点③ 俯瞰の眺望提供

カルデラ地形、全体像、深さに応じた水面の色の変化等を実感させる

湖面における施策

観点②

・遊覧船・カヌー等による湖上体験の展開及び湖面利用ルールの明確化と見直し

高付加価値化の重点エリアの施策

観点①

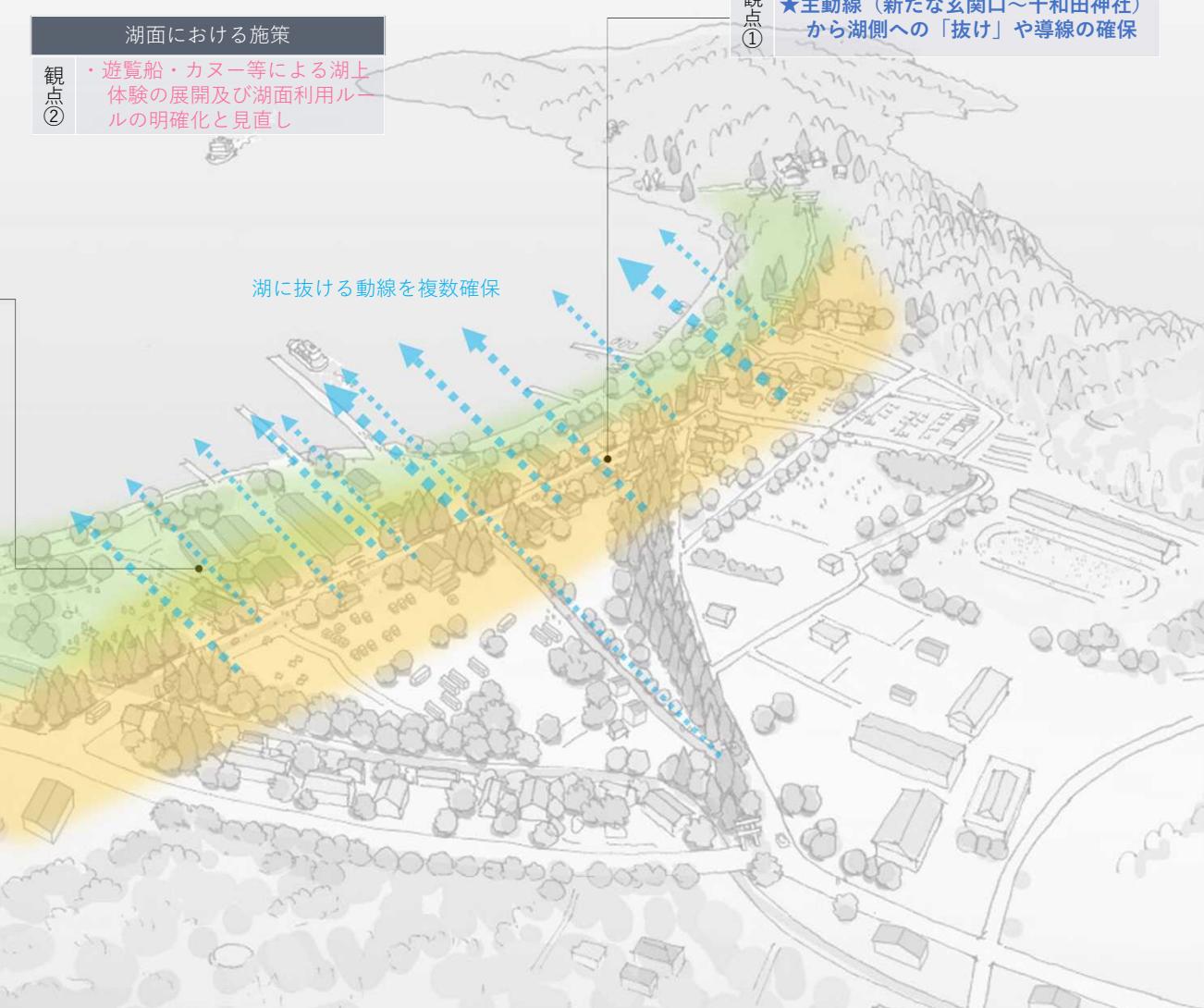
★主動線（新たな玄関口～十和田神社）から湖側への「抜け」や導線の確保

湖畔景観保全エリアの施策	
観点①	・湖畔の休憩ベンチ・東屋等の設置改修 ・眺望体験を支援するサービスの展開 (チェアリングなど)
観点②	★湖畔林の適切な保全・管理 (病害・鳥獣対策・剪定・植樹等) ★建築物等の景観管理ルールの明確化と見直し (規模・形状・色彩等)



チェアリング（※イメージ）

湖に抜ける動線を複数確保



◆周辺エリアにおける施策

観点③

- ・展望台での通景伐採等による俯瞰眺望の回復 (草木払い等)
- ・既存展望台を利用した体験ツアーの充実

2. 十和田信仰

自然と向き合う心が磨かれる
十和田信仰に触れる体験

史実に基づいた古道や結界の強調
などによる十和田信仰の追体験

★: 主要施策

桃字: ソフト施策 (体験・インターープリテーション)

※次年度以降に具体的な検討を予定

観点① 古道の強調

かつて古道を通り、自然への畏怖・
畏敬の念を育んだ修験者や参拝者の
追体験をするために必要

観点② 信仰を感じられる場の提供

十和田信仰の価値に史実に基づき、正しく
触れるために必要

観点③ 神聖で厳かな空間の構築

鳥居前の脇やかさから一変し、神聖な
参道に足を踏み入れたことを実感する
ために必要

高付加価値の重点エリアの施策

観点② ★占場・自籠岩のアクセス路整備等の検討・管理

- 中山半島園地（十和田神社奥）の再整備
- 十和田信仰を実感する体験の創出及び
利用ルールの明確化と見直し



高付加価値の重点エリアの施策

観点① ★古道の杉並木・鳥居の再整備

- 管理
- ガイドブックやビジターセンターでの十和田信仰の案内の充実



高付加価値の重点エリアの施策

観点① ★新たな地域の玄関口の整備

高付加価値化の重点エリアの施策

観点① ★車両主動線の変更

休屋・休平地区の将来像とその実現へ向けた施策 - 「方針3:自然を感じる滞在」の実現施策

※概ね20年後のイメージ

3. 自然を感じる滞在

自然の中で魅力溢れるくらしを
365日味わえる上質な滞在1年を通じて安全・快適に地域の
価値・魅力に触れられる滞在体験。

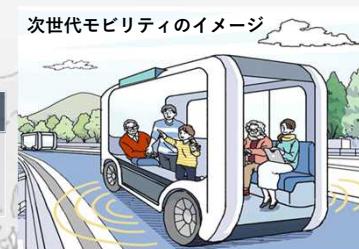
★: 主要施策

桃字: ソフト施策 (体験・インターープリテーション)

※次年度以降に具体的な検討を予定

観点① 廃屋撤去・撤去跡地の
上質な利活用無秩序な土地利用開発を防ぎ、適正な
高付加価値化を進めていくために必要

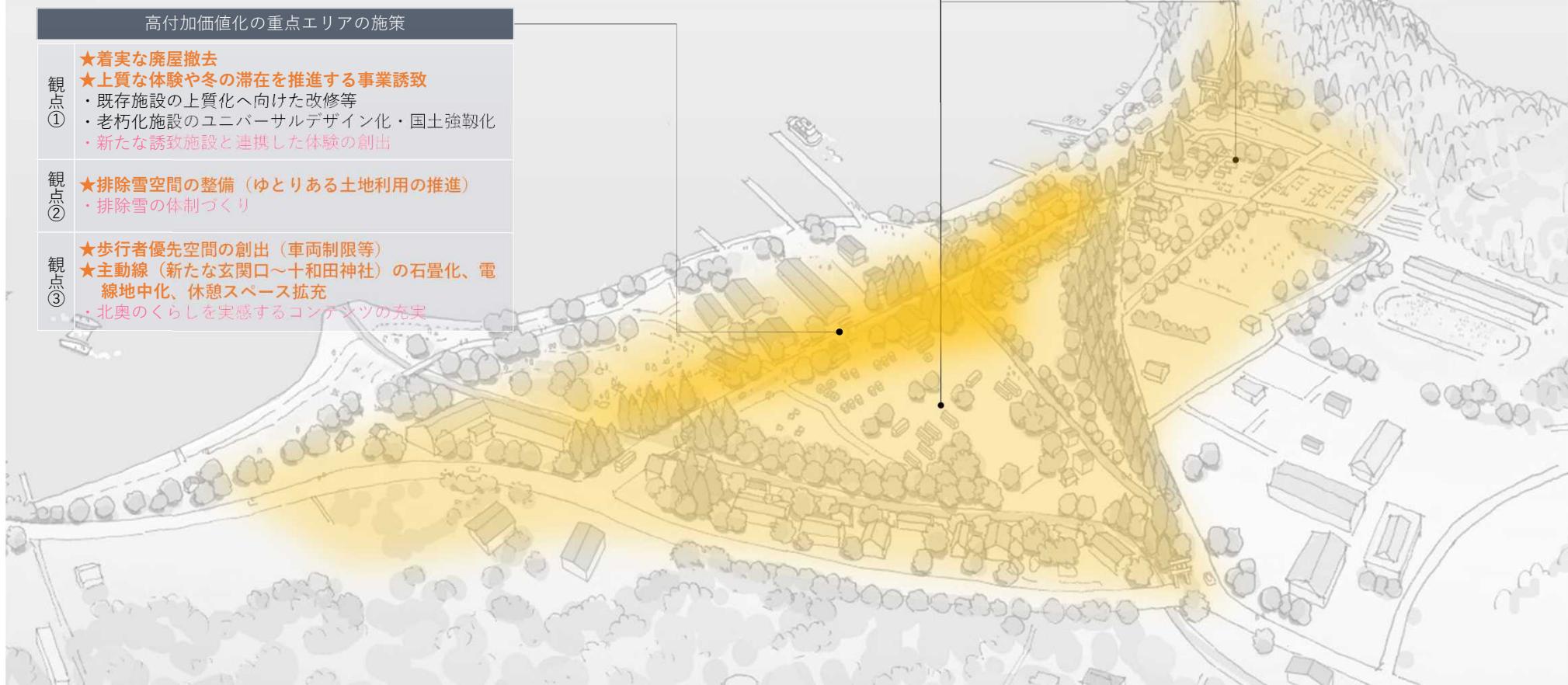
観点② 冬季観光のための基盤整備

1年を通じて、地域の価値・魅力を高い
純度で実感するために必要観点③ 安全・快適な回遊空間の
実現交通事故、振動・騒音被害、景観阻害
などを生み出さないために必要

出典: 国土交通省資料

高付加価値化の重点エリアの施策

観点③

★移動支援モビリティの導入・乗換拠点の整備
★南駐車場の機能拡充とエリア回遊の拠点化

休屋・休平地区の将来像とその実現へ向けた施策 - 各シーンにおける将来像 (1) 【古道の強調】

古道を強調するため、杉の植樹と古道を分断していた東西道路の機能縮小を行い、車の主動線を南側の道路へシフトします。これに伴い、休屋橋を新たな地域の玄関口とし、南駐車場の機能拡充を図ります。

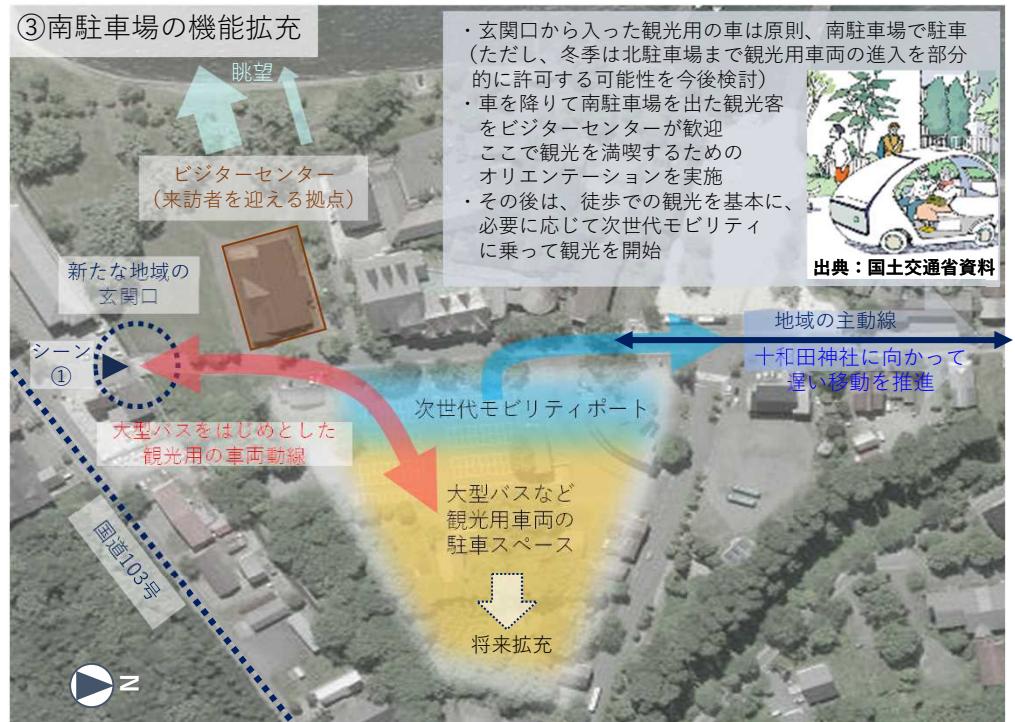
①新たな地域の玄関口



②古道の強調



③南駐車場の機能拡充

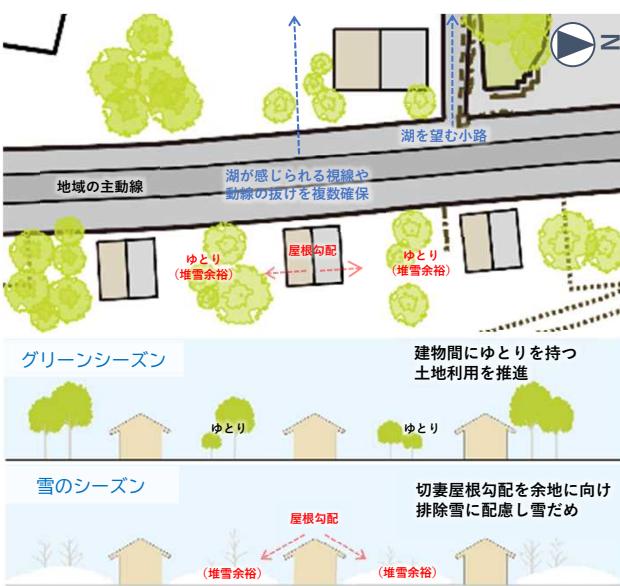


休屋・休平地区の将来像とその実現へ向けた施策 - 各シーンにおける将来像 (2) 【地域の主動線の整備と周辺の建物配置】

観光とくらしが交わる地域の主動線は歩行者中心の空間として展開します。また、周辺の建物は十分なゆとりを持った配置とすることで、湖を感じられる“抜け”を確保しつつ、冬季の除雪空間も確保します。

④地域の主動線
(南側)⑤地域の主動線【冬季】
(北側)

⑥建物配置の考え方



⑦地域の主動線から湖を望む小路



⑧来訪者を迎える拠点と眺望 (ビジターセンター横の太陽広場)



休屋・休平地区の将来像とその実現へ向けた施策 - 各シーンにおける将来像 (3) 【冬の滞在場所の整備】

降雪が著しい冬季においても、観光とくらしの交わりが実感できるような場を整備します。

⑨跡地広場【冬季】



- ・冬は湖畔林の葉が落ち、湖畔林の後ろからでも湖と外輪山を眺めることが可能
- ・暖が取れる滞在場所を整備することで、こうした冬観光の満喫をサポート



本ページは現時点の考え方です。これを元に令和7年度の民間サンディング調査を実施し、事業者との対話を通じて誘致の候補地や考え方を更に検討・調整します。

1) 事業者誘致の候補地（案）

地区の主動線沿いの廃屋跡地を中心に、滞在型・高付加価値観光の基軸を担う宿泊施設や飲食・物販施設の誘致を推進します。

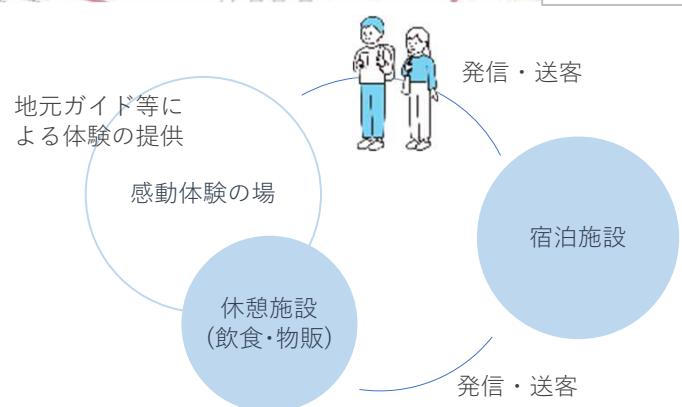
※以下の候補地以外での事業参入を妨げるものではありません。



◆宿泊・休憩施設の誘致により期待される効果

滞在の核となる宿泊施設・休憩施設（飲食・物販）が雨天や冬季も快適に過ごせる場かつヒメマスや山菜等、地域の魅力・価値の発信の場となり、来訪者に感動体験を提供します。

これらの施設は来訪者を感動体験に繋ぐ場であり、更に地元ガイド等と連携することで、地域内消費の増加にも寄与すると考えられます。



休屋・休平地区の将来像・利用に関する方針

本ページは現時点の考え方です。これを元に令和7年度の民間サウンディング調査を実施し、事業者との対話を通じて誘致の候補地や考え方を更に検討・調整します。

2) 廃屋跡地等への事業者誘致（公募）条件の基本的考え方（案）

廃屋跡地等への事業者誘致に向けた公募条件は以下を想定します。

今後、事業者との対話等を踏まえ、詳細な条件・変更について検討し、令和8年度を目途に公募条件としての設定を目指します。

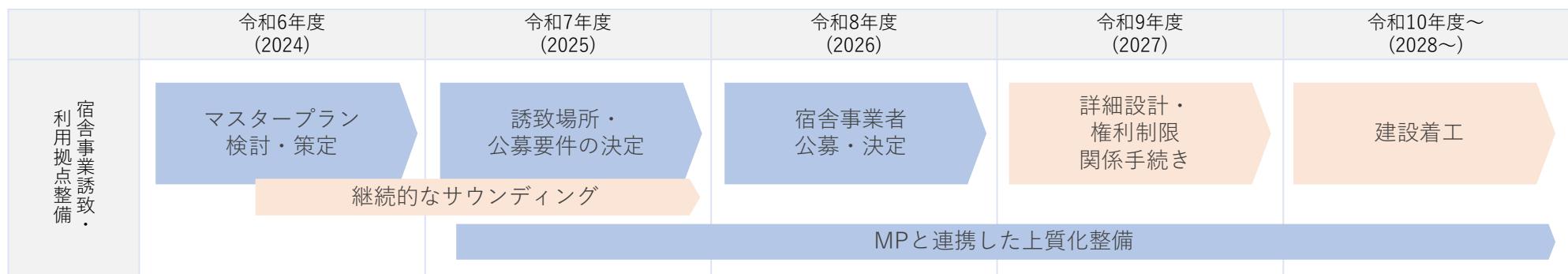
◆事業の位置づけ・種類、法令手続き、事業期間

事業の位置づけ・種類	自然公園法に基づく「国立公園事業」として取扱う 【宿舎施設】公園利用者の宿泊の用に供される施設 【飲食施設又は物販施設】 公園利用者の休憩又は飲食の用に供される施設
事業に必要な法令手続き（許認可等）	<ul style="list-style-type: none"> 自然公園法に基づく公園事業の認可 国有財産法に基づく国有地の借地（事業用定期借地契約） 文化財保護法に基づく現状変更許可 その他関係法令手続き（旅館業法や食品衛生法等）
事業期間	<ul style="list-style-type: none"> 国有地の有償貸付け期間として、原則として30年以内（借地借家法に基づく定期借地権の設定契約） 事業終了時は原則、原状回復を行い国に返地（事前に事業継続の可能性について国と協議）

◆求められる事業の方向性、建築制限等

求められる事業の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 利用拠点マスター・プランとの整合 (本マスター・プランP.5における面的な魅力向上の3つの方向性) 地域の自然体験アクティビティと連携（例：施設内でも自然資源の成り立ちや十和田湖の歴史・文化に触れることができる） 複数泊、長期滞在向けのサービス（例：周辺地域のアクティビティや温泉等と連携した滞在プラン又はワーケーション設備がある等） 地域とのつながりの創出（例：地域行事やボランティアへの参画機会を紹介できる、地域の人も利用することで交流できる等） 自然環境保全や利用環境整備への再投資（例：事業収益の一部還元・ボランティア等により地域の清掃や公共施設の管理等に貢献） サステナビリティへの貢献（例：事業活動における脱炭素・脱プラスチック・廃棄物の削減・リサイクル等に係る取組を推進する）
事業施設の一般的な建築制限等	<ul style="list-style-type: none"> 最高高さ13m以下 屋根は切妻又は寄棟（勾配2/10以上） 屋根及び外壁の色彩は茶色系～グレー系 建ぺい率40%以下 車道及び敷地の境界からの壁面後退5m以上 駐車場、広告物等の付帯施設は最小限

◆宿泊事業者の誘致に係るスケジュール ※基本構想より



マスタープランの推進

1) 将来像実現へ向けた施策の実行①（主にハード整備に関する施策）

地区の将来像実現へ向けた各種施策は多岐にわたり、また、多分野に跨がるため、十和田湖1000年会議構成員の分担・連携により推進します。

下表のとおり、当面3年後までを目途に実施又は着手すべき施策と、その実施主体を示します。

No.	当面3年後までを目途に実施（着手）すべき施策	実施主体
1	廃屋撤去	環境省
2	既存施設の上質化へ向けた改修等（補助）	環境省・十和田市・小坂町
3	建築物・広告物の景観管理ルール（法律・条例・ガイドライン）の明確化・見直し	環境省・青森県・秋田県
4	主導線（神社参道含む）の石畳化・無電柱化	十和田市・民間
5	古道（旧参道）の鳥居整備及び杉並木管理	民間
6	中山半島園地（十和田神社奥）の再整備	青森県
7	自籠岩・占い場を繋ぐ歩道ルート整備・管理体制構築	環境省・民間
8	地区の新たな玄関口（サイン等）整備	環境省
9	湖畔林の適切な保全・管理及び湖畔沿い休憩スペースの充実	環境省
10	主導線沿い（廃屋跡地等）の事業者誘致及び滞留・休憩スペースの充実	環境省・十和田市
11	南駐車場の拡充（南北駐車場間の回遊性向上）へ向けた調査検討	環境省・民間
12	歩行者優先空間の創出（車両導線等の見直し）へ向けた調査検討	環境省・青森県・秋田県
13	移動支援モビリティ導入・乗換拠点整備へ向けた調査検討	環境省・十和田市・民間
14	老朽化施設の再整備によるユニバーサルデザイン化・国土強靭化（駅前広場トイレ、湖畔遊歩道、休平園地トイレ）	環境省・秋田県
15	主要な展望台における通景伐採等による俯瞰眺望の回復	青森県・秋田県
16	旧十和田湖小学校（廃校）ほか、空き地空き家の活用検討	十和田市・民間
17	休平側空き地・空き家の利用方針検討	小坂町・民間

マスタープランの推進

1) 将来像実現へ向けた施策の実行②（主にソフト対策・仕組み作りに関する施策）

地区の将来像実現へ向けた各種施策は多岐にわたり、また、多分野に跨がるため、十和田湖1000年会議構成員の分担・連携により推進します。

下表のとおり、当面3年後までを目途に実施又は着手すべき施策と、その実施主体を示します。

No.	当面3年後までを目途に実施（着手）すべき施策	実施主体
18	インタープリテーション（魅力・価値のサービス化）計画策定	環境省・民間
19	十和田湖ならではの魅力・価値インナーブランディング及び商品化検討・勉強会等	環境省・民間
20	湖の神秘性・自然の成り立ちを実感するコンテンツ（カヌー等）の検討・磨き上げ	環境省・民間
21	十和田信仰を実感するコンテンツ（占い場体験等）の検討・磨き上げ	環境省・民間
22	北奥の暮らしを実感するコンテンツ（ヒメマス漁や冬季体験）の検討・磨き上げ	環境省・民間
23	水上スキー等湖面利用状況及び占い場利用ルール等の調査検討	環境省・青森県・秋田県・十和田市・小坂町
24	十和田湖地域に特化した各種プロモーション	各DMO
25	地区の不動産データベース化及び休廃業施設の有効活用へ向けた調査検討	環境省・十和田市・小坂町
26	既存の利用者負担制度の運用見直し	環境省
27	持続可能な観光地としての国際認証（グリーンデスティネーション等）の取得及びゼロカーボンパークの登録	十和田市・小坂町・民間
28	ICT技術の活用等による地域の教育・医療サービス向上へ向けた調査検討	十和田市・小坂町・民間
29	十和田湖地域に特化した観光地マーケティング・ブランディングの強化	各DMO
30	滞在型・高付加価値観光を支える暮らしの課題対処を中心としたエリアマネジメント組織の設立	(検討中)

マスタープランの推進

2) 関係機関・地域・官民の連携体制

- 特に関係者が多く、官民での協議や連携を要する施策分野は、十和田湖1000年会議にワーキンググループ（以下「WG」）を設置して関係者による定期的な検討・協議を進めます。
- WGで取扱う内容に応じて、WG事務局は十和田湖1000年会議構成員により分担します。当面WGで取り扱う施策分野とWG事務局については、下表のとおりとします。

なお、下表は当面の考え方であり、各施策分野の進捗状況等に応じて、適宜見直しを行います。

当面WGで取り扱う施策分野	WG事務局
暮らし・なりわい（特に住まい確保）	十和田市、小坂町
湖面の利用（特に水上バイク対応）	（検討中）
信仰に関する価値と魅力の提供 (特に鳥居整備・占い場の活用検討)	民間（※）
既存の利用者負担制度の見直し	環境省

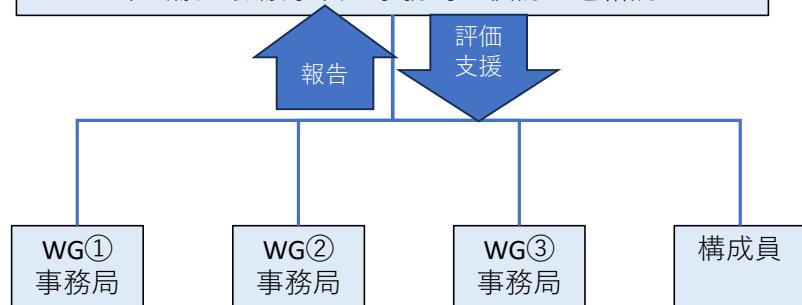
※「民間」とは、十和田湖1000年会議構成員のうち、行政機関以外の構成員を指しています。具体的にどの構成員が事務局を担うかは別途協議して決定します。

本ページは現時点の考え方です。これらの体制構築等の考え方について、本マスタープラン素案における施策及び実施主体が定まってから、再度関係者で調整・整理を行います。

3) 施策の進捗確認・評価・改善の体制

- 本マスタープランに基づく各施策の進捗状況の確認及び評価は、引き続き十和田湖1000年会議の枠組みにおいて行います。
- 各施策は前頁の実施主体が中心となって進めるほか、WGを設置する分野はWG事務局が中心となって施策の内容検討や関係者協議を進め、関係者での連携の下に進めます。
- 各施策の実施主体及びWG事務局は、施策の実施状況を十和田湖1000年会議において報告し、施策推進上の課題が生じている場合には、十和田湖1000年会議構成員が協力してその解決に取り組むこととします。

十和田湖1000年会議
▶ 基本構想・マスタープラン実施に関して協議、評価
▶ 施策に係る課題・支障の解決のため構成員全体で協力
幹事会
▶ 1000年会議の協議事項の事務的な検討・連絡調整

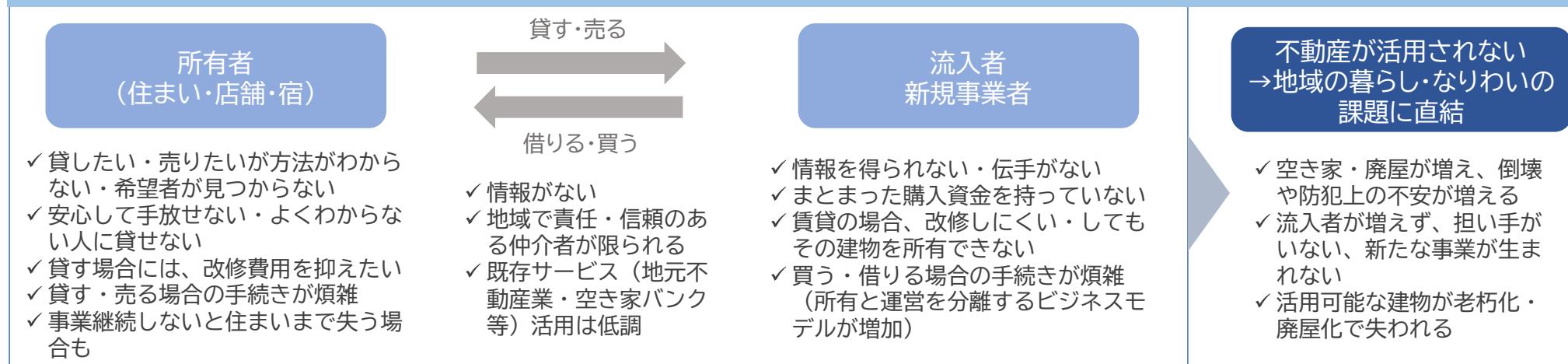


本ページは現時点の考え方です。これらの体制構築等の考え方について、本マスタープラン素案における施策及び実施主体が定まってから、再度関係者で調整・整理を行います。

4) 滞在型・高付加価値観光を支える地域の課題解決へ向けた体制づくり

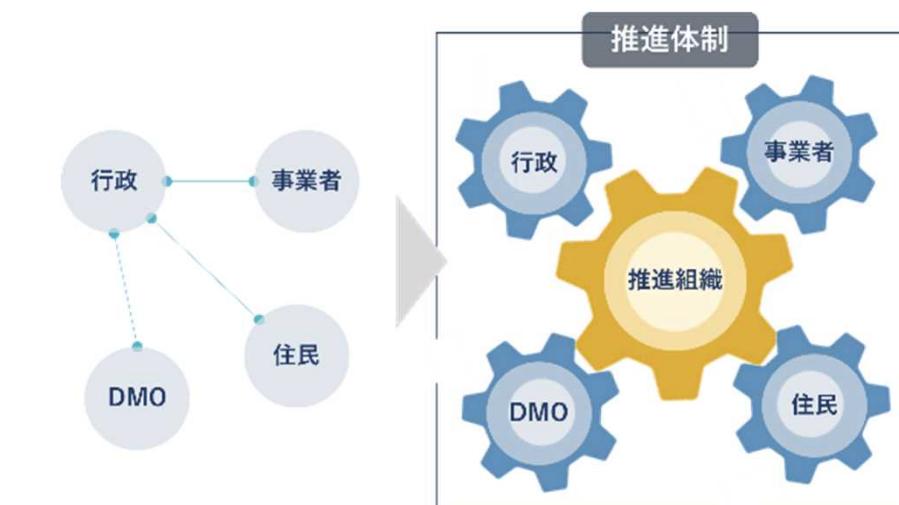
休屋・休平地区では、遊休不動産の活用が進まないという課題が大きいほか、地域社会の担い手確保へ向けた教育・医療サービス等の充実が求められているなど、幅広い生活基盤サービス・インフラの底上げが重要な状況であり、こうした地域社会の課題に対処できる体制・組織づくりが急務です。

休屋・休平における地域社会の課題の例（空き家や休業施設など遊休不動産が活用されにくい）



◆新たな体制構築の方向性

- ・地域おこし協力隊や1000年会議構成員からのスタッフ派遣等を検討し、こうした地域課題対処に専従できる人員の現地配置を目指す
 - 専従スタッフ配置とともに、地区の不動産データベース化作業等、比較的容易な作業から着手
- ・上記作業を進めつつ、休廃業施設の有効活用など地域課題解決へ向けての取組を地域で事業化できるような仕組み・体制づくりを進める
 - 新たに構築された組織・体制が本地区の住民、行政、事業者、DMO等を繋ぐ役割を担い、地域課題解決の中心的役割を果たす



1) 高付加価値化の考え方について

2) ストーリーについて

3) 将来像について

意見整理中

ストーリー

大きな力で人々を惹きつける北奥の湖水美 (十和田湖の美しさ)

【導入文】

静謐な十和田湖は、火山としての動を秘めている。どこから向かうにも遠く、外輪山の険しいみちのりを越え、十和田湖を目に収めたとき、その美しさは一層の感動を呼び起す。外輪山の中で大きな自然がもたらすメッセージに、今も昔も人々は惹きつけられている。

【本文】

十和田湖には、何か不思議な、大きな力がある。

十和田湖が広く認知されるようになったのは、大町桂月がその美しさに感動し、「山湖として最も偉大なること」「山は富士、湖は十和田」と紀行文を発表したことだとされる。

十和田湖の美しさに惹きつけられた様々な名士により、有数の観光地へと発展したが、その一方で純度の高い自然が守られてきたのは、保護地域とする法的な枠組みを最大限活用して守ってきた関係者の尽力も見受けられる。

十和田湖は周辺の里山のどこから向かうにも遠く、険しいみちのりを超えることで、その美しさは、より一層深められる。複雑な地形が織りなす表情や厳冬の中に現れる自然の芸術品は、繊細でありながらも人智を超えた動を見え隠れさせ、人々に自然への畏敬や畏怖の念をもたらしている。

【来訪者の体験価値】

十和田湖に引き寄せられ・魅せられた先人や遠く険しいみちのりの先にある、十和田湖の湖水美や複雑な地形が見せる様々な表情を見ることで、安堵感や達成感を抱くことができる。また、外輪山の中で自然と対峙した時、悠久で壮大な自然に抱かれながら、多幸感や祈りなど、自身の様々な感情に出会うことができる。

【体験の提供・磨き上げに重要な要素】

- ✓ 外輪山を越える … 展望所から十和田湖を眺める
- ✓ 外輪山を感じる … 遊覧船・カヌーに乗る、湖畔・特別な空間から湖を眺める
- ✓ 惹きつけられた人を知る … 乙女の像を見る、十和田保勝論・大町桂月の紀行文を読む

壮大なスケールと繊細な表情をもつ十和田湖 (自然の成り立ち)

【導入文】

約21万年前から破局的な噴火を繰り返し誕生した多重カルデラ湖は、噴火の度にゼロから豊かな森を形成してきた。小さな有機物から始まる遷移の全てを観察することを通し、ブナ帯の森の形成のあり方を知ることができる。様々な生命が息づく森が生み出す美しい湖水は、毎秒その表情を変え、時の流れを忘れさせる。

【本文】

十和田湖は森が近く、深い。

約21万年前に始まった火山活動により形成された多重カルデラ、十和田湖。日本で3番目・世界で17番目に深く、それは噴火を何度も繰り返してきたことを物語る。周囲にはブナを主とした原生的な森が広がり、豊かで豪快で繊細な四季に神秘的な自然の力を感じる。

周辺の森は、噴火で発生した岩に付着した蘚苔類や地衣類等の小さな有機物から始まった。やがて土ができ、長い年月をかけてブナ帯の形成に至った。そしてそれは何度もリセットされ、繰り返されてきた。十和田湖は豊かな周辺の森に集水域が限定されたことから、湖水は美しく、季節や天候・時間、毎秒新鮮で繊細な表情を見せる。外輪山の一部が崩壊して流れ出したことにより奥入瀬渓流が生まれ、現在は渓流美という観光資源にもなっている。

【来訪者の体験価値】

火山の力強さ、繊細な四季、長い年月による森の成り立ち、森と湖のつながりを知ることで、毎秒の美しさへの理解が深まり、目の前の景色への感動が一層増す。

【体験の提供・磨き上げに重要な要素】

- ✓ カルデラ地形を眺める … 発荷峠・御鼻部山展望所から地形を眺める
- ✓ 森の成り立ちを知る … ランブリングに参加する
- ✓ 下流との繋がりを感じる … 奥入瀬渓流ツアーに参加する、水門を見に行く

ストーリー

靈山十和田、世の安泰を願う人々 (十和田信仰)

【導入文】

日本で過去2000年のうち最も激しかった噴火への畏怖や自然への畏敬から生まれた信仰心。外界から隔絶された十和田湖での修験の先に、世の安泰を願う、日本古来の精神性を知ることができる。

【本文】

十和田湖は湖そのものが、青龍大権現を祀る聖域である。北東北最大の山岳靈場として、南祖坊が持ち込んだ仏教の教えは、修験の場として人々に目指された。明治維新後、神仏分離・廢仏毀釈の波により、一度御堂は閉じられたが、その祈りの場は神社として現在も鎮座している。参詣者は外輪山の登り口から険しい道のりを進み、難行苦行の功を積んだ。外輪山の峠には、現在は展望台と変容した遙拝所が結界として置かれており、人々はそこで初めて眼下に湖水を収めることができる。最後の結界である神田川で禊を行った後、十和田御堂に至り、世の安泰を祈った。奥の院である占い場は、吉凶を占う場としての側面と神宿る岩・色ある山と言われた御倉半島と対面できる参詣の場としての側面を有する。十和田湖や占い場は人々の旅の目的であり、自然への畏怖から始まり、やがて畏敬の念を育んだ人と信仰の関係性と仏教の受容性を伝える貴重な資源である。

【来訪者の体験価値】

十和田信仰・十和田神社を知ることで、日本に古来からある自然に対する畏怖・畏敬の念、日本人の精神性・心の拠り所を思い起こすことができるようになる。

【体験の提供・磨き上げに重要な要素】

- ✓ 信仰をなぞらう … 十和田神社・占い場・自籠り岩へお参りする、古道を歩く、かぎかけを体験する
- ✓ 十和田信仰を学ぶ … 早朝ツアーへ参加する、八郎太郎伝説を学ぶ

北奥に生き、くらしを拓いた人 (十和田湖の生活)

【導入文】

産業の要請から厳冬で隔絶された環境への居住を余儀なくされた十和田湖畔。過酷な環境における栄養源の確保として、自然を守りながら恵みを生かした生活様式を確立したことで、今日の十和田湖のくらしにつながっている。

【本文】

明治前期の西湖畔には、カルデラ断崖に発達する2つの鉱山があった。和井内貞行は、十輪田銀山の食糧調達のために私費を投じ、養殖漁業を始めた。失敗が続く中、鉱山の閉山など幾度となく押し寄せる逆境を乗り越え、21年の歳月を経て、ヒメマスの養殖に成功した。ヒメマス漁業は100年経った現在も引き継がれており、孵化場で稚魚を育て、十和田湖に放流され、数年かけて成熟したものを水揚げしている。ブナ帯の創り出す綺麗な水と冷たい水温、漁業関係者の磨かれた技術によって成立する特有の産業である。

栗山新兵衛は、山の恵みである山菜を貯蔵して厳しい冬を乗り越えるなど、雪深い十和田湖でのくらしを切り開いた。森と人との密接なくらしは現在も守りながら引き継がれている。

十和田湖は水がめとしての側面も持ち、奥入瀬流域は発電や灌漑として利用され、下流域のくらしに豊かさをもたらしている。

【来訪者の体験価値】

カルデラ湖から生まれた産業、私費を投じてもくらしを拓こうとした先人や今までつないできた人々の志を知ることで、自然の恵みとともに生きる原始のくらしを知ることができ、豊かさに立ち返ることができる。

【体験の提供・磨き上げに重要な要素】

- ✓ 十和田湖の恵みを知る … 民宿・食堂で十和田湖の恵みを食す
- ✓ ヒメマス漁を知る … 孵化場・道の駅和井内に行く、ヒメマス漁を体験する
- ✓ 先人を知る … 道の駅和井内で銅像を見る、開発の碑を見に行く